

サヨナラ☆ありがとう

校長 武井 正明

卒業式の朝。

いつものように仏壇の両親に無事卒業式が終わりますようにと手を合わせる。外は濃い朝靄が掛かっている。朝食は、今年も愛妻が赤飯を炊いてくれた。

出掛けのスーツは、吉中に着任した日のもの。タイピンは、恩人から校長になるお祝いに戴いたもの。今日は、親父の腕時計をつけて守ってもらうことにした。

あっというまに式の時間となり、証書の授与となる、

ひとりひとりの顔を見ながら、心の中で「おめでとう!!」と声を掛ける。ひとりひとりに、自分だけの『吉中物語』がある。振り返る背中に「頑張れ!!」と眼でエールを送る。

野球部キャッチャー彼の番、「ハイっ!!」という返事に、野球部が北信越大会を決めた瞬間の、バッテリーが駆け寄り、抱き合う瞬間が脳裏をよぎる。

瞬時に父の笑顔が浮かんだ。言葉にできない感情が込み上げる。校長になって、証書授与でこんな気持ちになったのは初めてだった。

式辞は顔を上げて卒業生の顔を見ると、読み続ける自信がなかった。原稿には私の思いを総て詰め込んだ。できるだけ平静を装って読んだ。対して、送辞答辞のふたりは、落ち着き払っていて、実に見事だった。中学生ながら、たいしたものだ。

卒業合唱、素晴らしかった、最高!! 斜めから見上げる、卒業生の顔、顔、顔…。身体を揺らして歌う彼らを見ていたら、ここでも親父の笑顔が浮かんだ。見てくれてるかな。

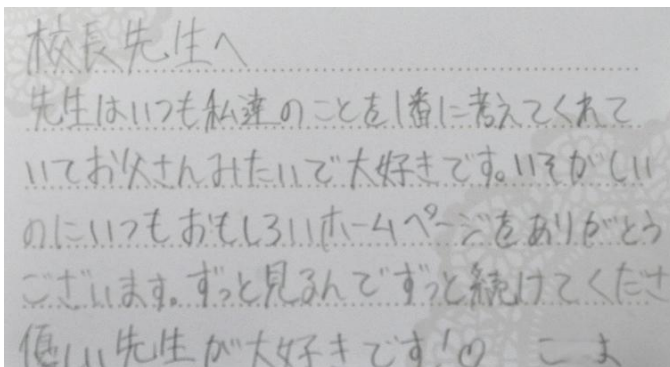
いい子どもたちでしょう。この子たちの笑顔が、俺を支えてくれたんだよ。

吉田中学の校長であることの幸せを、しみじみ噛み締めた、至福の時間だった。

その後、最終学活と並行して、体育館でPTA解散式が行われた。

親御さんの姿を前に、式が無事終わった安堵感も手伝って、つい気持ちが緩む。それでも、なんとかお礼だけは伝えることが出来た。もう親御さんには感謝しかない。

卒業生たちにはこれからも、ずっと私の希望でいてほしい。



校長先生へ
先生はいつも私達のことを一番に考えて
いてお父さんみたいで大好きです。11月31日
の11月31日おもしろいホー-4ページをありがとう
ございます。ずっと見込んでずっと続けてくれた
優しい先生が大好きです。のこま

最後に、卒業生たちを送り出す。

笑顔や涙、いいねえ。本当に君たちの青春時代の第一章が終わったんだね。

そして、明日からいよいよ君たちの青春時代・第二章の幕が上がる。

去り際に、卒業生の彼女からお手紙を貰った。何度も読み返す。お手紙、ありがとう。

元気で。ずっと応援してるよ…。